

山行報告

六甲全山縦走トレーニング

日 時：2月21日(日) 参加者数:14名

参加者：A班—L:上田 SL:大瀬 尾越・塩津・高橋・前田

B班—L:砂川(延) SL:尾内 北村・切貫・本多・増田・森川・山崎

行動記録：須磨浦公園6:30～旗振山6:55～7:05～横尾山8:15～妙法寺9:05～9:20～
高取山10:10～菊水山12:20～12:30～鍋蓋山13:35～13:40～大龍寺14:05～
市ヶ原14:20～摩耶山16:00～16:20～記念碑台17:35～凌雲台18:05～18:10～
一軒茶屋20:20～20:35～ゴール22:00

労山六甲全山縦走

日 時：3月14日(日) 参加者数:11名

参加者：A班—L:砂川(延) 尾越・高橋・本多・前田

B班—L:大瀬 切貫・増田・森川・山崎・山本

行動記録：須磨浦公園駅集合5:38～公園受付出発5:50～横尾山7:05～妙法寺7:50～7:55～
高取山8:35～8:40～神鉄鴨越駅9:25～菊水山下チェックポイント9:40～9:45～菊水山々
上10:30～鍋蓋山11:25～大龍寺11:50～11:55～市ヶ原12:07～12:12～摩耶山
11:30～13:50～六甲最高峰16:50～17:00～塩尾寺19:15～ゴール19:27

★ 六甲全山縦走にチャレンジして

大瀬

2月21日、縦走トレーニングとして、14人が2班に分かれて須磨浦公園を6時30分に出発



した。トイレ休憩の取り過ぎか時間だけが過ぎ距離が進まない。大龍寺(PM2:00)に着いた。本番の閉門時刻は(PM1:00)だから、ここでタイムアウトになるところだが、今回はトレーニングでよかった。

縦走の経験者6人・未経験8人、市ヶ原でトイレ休憩し、ここから最大の難所、天狗の登り、疲れた足にきつい。(昨年ここで、両脚が痙攣して歩けなくなったのを思い出す)今年は、リーダーの上田さんの足が痙攣し、代わって私が摩耶山まで皆を先導する。

掬星台に(PM4:00)。まさか差し入れを持って待っているとは思ってもいなかったが、お陰でちょっと元気回復できた。ここで4人が下山し、砂川リーダーを先頭に10人が宝塚を目指して出発する。

凌雲台(PM6:30)で、ライトの灯りをつけ、船坂峠～大谷乗越の暗い山道、健脚リーダーのスピードについて行けず、「早く来い」と言われるがピッチが上らない。ゴールに着いたのは(PM10:00)だった。

3月7日、前回のタイムでは本番どうにもならないとの反省から、この日急遽、六甲西コースの全縦組本番用トレーニングをすることになった。

スピード、トイレ休憩の取り方を考え須磨浦公園を6時20分に出発した。砂川リーダーとメンバー6人、妙法寺(8:25)でトイレ休憩し、菊水山頂上(11:00)を経て、大龍寺に(12:37)到着。本番の閉門時刻に間に合ったが、縦走参加登録者は14人、何人参加するか分からないがアクシデントがあると、タイムアウトになる恐れが考えられる。当日は万全を期して、東二見発の一番電車で行くのが無難だろうとなった。

3月14日、六甲全山縦走の本番。須磨浦公園に5時50分、11名が揃い、受付を済ませて、6時前スタートして歩き出す。しかし15分も経てないのにKさんが遅れだし座り込む。

「私、あかんわ。ここから帰る」と。まだ山を一つさえ越えていないのに、これはリタイアと言えるのか？これから15時間かけて宝塚まで歩こうと言うのに、一人帰りましたとは言えない。後でリーダーに「調子が悪いらしく、リタイアするとか。」と報告をしたら、「パーティーだから、勝手な事をするな。」と注意され、これは最後尾に行く私の責任だ。

この後、何が起ころやら不安な道中だったが、妙法寺～高取山を過ぎ、菊水山下のチェックポイントが(9:39)で、いいペースだ。前半の山場は、あと二つ菊水山と鍋蓋山だ。

今日の天気は晴れで気温は高め、菊水山の登りに大粒の汗が流れる。いつ来てもこの登りはきつい。Yさんがスタミナ切れと足の痙攣で、先頭から10数分遅れで何とか頂上へたどり着くが、この先パーティーの歩くスピードに付いて行けないと判断、下山してもらうように話をして先を急ぐ。

大龍寺(11:48)に到着。定刻の関門より30分の貯金が出来た。しかし裏六甲は雪とぬかるんだ道で歩きにくいと予想される。市ヶ原でトイレ休憩し、摩耶山にPM1:30頃に着けるよう考えたペースで歩きだす。いよいよ難所の天狗道で、今度はMさんが、足の痙攣で歩けなくなり、少し歩いては立ち止り時間だけが過ぎていき、摩耶山頂上までの時間が心配になってきた。前田さんからリーダーの方へ、「時間を見はからい追い付くから」と伝言を頼む。掬星台に(PM2:10)到着。山本さんと、「この前は差し入れが有ったけど、今日は例会だから差し入れは無いな」と、話しをしていたら「こっち、こっちよ」と呼ぶ声がして、前回と同様な差し入れがあった。

弱っているMさんと一緒の下山を頼んで、我々は先頭グループを追いかけて、平地は速足で、山道はゆっくりオーバーペース気味で、記念碑台で(PM3:20)みんなに合流した。

凌雲台のトイレは、顔を洗って気分転換するナイスポイントの筈だが、トイレに行くと工事中の張り紙があり、見ると200m西と書いてある。来た道に戻る事になり事前に情報をくれよと言いたい。

六甲最高峰(PM16:48)でトイレ休憩後、ライトの用意、足元が悪いのでスパッツも装着。

なるべくライトを使わずに距離を稼ぎたい。歩くペースが速くなり必死に付いて行く。何とか大平山までライトを使わずに來れた。足元は心配したほど悪くはなく歩きやすい。昨年も、ここまでライトは使わなかった。残るは大谷乗越え、ここを乗り越えたらゴールも近しだが、足が重くライトの明かりの山道は歩きづらい。リーダーのスピードに付いていこうと皆必死だった。

塩尾寺に着いた時はヤッタ！という気持ちになったが、ゴールまでのアスファルト道が、結構長く感じられた。(PM19:27)ゴールイン。



誰かが肩をたたく。振り返ると女の人に、「一緒に走らせて貰って有難う」と礼を言われビックリ、よく見ると記念碑台の手前から、抜きつ抜かれつ歩いてきた人で、六甲最高峰から同じペースで私の後ろ辺りに、ピッタリと付いてきた人だった。今年も無事終わりかな？

電車で帰宅中、Mさんから電話があり、途中リタイアしたと思ったMさんとYさんが、全縦先輩の案内で、無事ゴールしたとの連絡が入る。一応、完走おめでとうと言えようが、「リタイアして、山を降りる」と留守宅の上田さんに連絡が入っているはず、「また歩く」と再連絡したのかな？何事も無かったからいいでは、行動的に、パーティーとして問題があるように思う。あの状態では山を下りて欲しかった。歩くトレーニングだけではなく、トラブルが起きた時、どう対応するのも学習してもらう必要を感じた。

★ 加藤文太郎と六甲全山縦走

北村(佳)

昭和の初期、浜坂に生まれ、神戸で造船技師として働きながら、単独行で独自の登山技法を編み出し、日本アルプスの山々を疾風のように踏破した登山家がいた。

(六甲全山縦走)・・・6 時に塩屋を出て、縦走路中、最も辛い登りとされる摩耶山の天狗道を、まるで平地を、歩くような速さで、すたすたと登って行ったという。しかも、その日のうちに、和田岬の家まで歩いて帰ったそうだ。正に常識はずれの山歩きをした男がいた。彼の名を《 加藤 文太郎 》と言う。私には想像もつかない、“ モンスター ”としか言えない山男がいたものだ。・・・(砂川会長もその類かなあ～)

📖 お薦め参考図書 新田次郎著「孤高の人」、新潮社から文庫本も出ている。

★ 六甲全山縦走の反省

増田(善)

2月21日の全縦トレーニングで完走できたので、今回も大丈夫、行けるものとタカをくくっていたのが大間違い。

本番は、チェックポイントの時間制限があり、はじめから早いペースに、ついて行けず、天狗道では、足がつって歩けなくなっていました。掬星台で、全縦先輩差し入れの温かいスープと美味しいジュース、筋肉痛の緩和薬をもらい、しばしの休憩のおかげで、一時は萎えていた「完走したい」という気持ちちがムクムクともたげました。「あなたがその気なら、先導してもいいよ。」との言葉の甘え、最後まで先導してもらい、メンバーより、かなり遅れましたが午後8時40分、無事ゴールしました。

そして不思議なことに菊水山で脱落した山崎さんも、最高峰で遭遇し、3人一緒にゴールを果たしました。山崎さんも「何としても完走したい」という強い気持ちに支えられたと言われていました。

今回の件では、メンバーの皆さんにご心配をかけたことをお詫びするとともに、私自身まだまだ未熟であると再認識、反省しました。

ただ一方で、ゴール出来たことを素直に喜んでおります。有難うございました。

六甲西コース縦走トレーニング

日 時:3月7日(日) 参加者数:22名

参 加 者 :全縦班 L:砂川(延) SL:大瀬 尾越・高橋・本多・森川・山本

A 班 L:舩賀 SL:待場 井上・河合(由)・清水・関山・和田・渡邊(俊)

B 班 L:貝塚(文) SL:澤田(律) 足立(光)・足立(美)・大谷・狩集・河合(信)

行動記録 :須磨浦公園8:00～高倉台9:05～横尾山9:50～東山10:15～妙法寺10:45(昼食)

11:05～高取山11:55～鈴蘭台下水処理場13:35～菊水山14:30—14:40～

鍋蓋山15:50—16:00～大龍寺16:30～新神戸駅17:40

★ 西六甲縦走初完走に思い

和田

山電の須磨浦公園駅に定刻到着。この駅に下車するのは初めてである。まさに公園のなかの駅である。メンバーがそろったところで舩賀リーダーの挨拶に続き、ストレッチ体操が始まった。ストレッチ体操の号令者は河合さんである。前回の笠形山でも河合さんが号令されていた。川柳もプロで、ストレッチ指導もプロらしい。

天気は予報通り、どんよりしている。風はない。すぐ下を車が走り、すぐその向こうが海になっている。ぶらぶらと散歩するには、素晴らしい所だ。ストレッチが終わると、A・B班に分かれてすぐ歩き始めた。(私はA班)きれいに舗装されたなだらかな上りを海と松林を眺めながらのウォーミングアップという感じである。30分も歩くと、街が下に見えるようになってきた。

鉢伏山という名前が出てきた。（ 鉢伏山と言ったら氷ノ山のあたりにもあるが、この名前の山は、ひょっとしたら他にもあるのかな。）しばらく行くと家並みの中に下りてきた。あなた任せで歩いているから、今どこを歩いているのやら？リーダーは、迷路みたいなルートを迷っている風もなく、どんどん先へ歩いて行かれる。

街中（高倉台）でトイレ休憩のとき、山の稜線の小さく見える長い階段を指差して、「あれを登るんや。」と言われた。きついかなと、ちらっとは思った。登り始めた。すぐ息が切れた。きついと実感した。ペースは同じ。なんとかついて行った。しばらくすると、横尾山の標識のあるところに着いた。しばしの小休止、息を整える。

時々メモをとっている人に気付いた。

「何を記録しているんですか。」と訊いたら、高度記録とのこと。へえ～高さの記録もとるのかと感心したが、後で聞いたら、高度記録ではなく行動記録だと判った。この人の名前を覚えてもらおうと、河合さんの奥様でした。

行動記録は、毎回、山行報告に記載されるとのこと。これまで会報をもらっていたが、本文だけをざっと読んで、行動記録には気づかなかった。

この辺りからは、すぐ下に街並、神戸空港、海に浮かぶ船が見える。道標で高取山方面へ向かう。すると急に、地肌が露出した尾根筋に出た。名勝“馬の背”と書いてある。

渡邊さんに、「ここは、須磨アルプス」と、教えてもらった。日曜日は大勢の人が訪れるそうである。あいにく今日は雨模様で、我々の他に会おう人は無い。

こんな所は変化があって若干 興奮するところである。ゆっくり楽しみたいような気分だが、誰も殆ど気にもしない風で、どんどん先へ進んで行って、10分ほどで通過してしまった。

次に高取山への道標が現れた。トイレ休憩に寄った広場に、山友登山会という看板があった。一瞬、山遊会と勘違いした。似た名前の会があるもんだ。



また街中へ下りた。そして少し行くと「鵜」という字のある道標があった。何と読むのかと訊くと、河合さんが、ヒヨドリと教えてくれた。そういえば「ひよどり越え」というのを昔、学校で聴いたような気がする。河合さんは物知りだなあ。

つづいて、鳥原砂防ダム～鈴蘭台処理場という所を通過した。菊水という名前が聞こえてきた。「それを越えたら、あとは楽だ。」と、待場さんが言われる。「そうか、もうチョイだな。」と思った。それから、いよいよ菊水山への登りに入った。どんな所だったか？後で思い出そうとしても、とにかく息も絶え絶えになったことしか覚えていない。途中で誰か「休憩しましょう。」と、言わないかと期待しても、みんな黙々と行進している。病みあがりといわれる渡邊さんも、黙々と登っている。

先頭の舛賀リーダーが、休憩と言いつつそんな気配はないかなと期待して前を見るが、安定した足取りで、確実に登っている。あの歳でマラソンを走られるんだから、安易に休憩を期待しても駄目か・・・

それでもやっと菊水山の石碑の前に立てた。

関山カメラマン、「はいっ、口あけて、舌を出して。」の合図で記念撮影した。

「鍋蓋山は、菊水より少し楽。」と待場さん。そうかそうかと楽を期待した。ところが、菊水山の登りで、疲れが溜まっているのか、登り始めたら、もう菊水山の階段と同じ位のきつさになった。

自分一人だけがリタイアもできず、ついていった。頂上に「鍋蓋山山頂486. 5m」のポールがあった。以後は、疲れて殆ど覚えていない。

布引の滝は素晴らしい。同じような滝が二つもあった。この辺りは深い谷筋に見える。

六甲に、こんな良い所があったとは、全く知らなかった。新神戸駅に到着して、体操をした。そして三宮で反省会。いや～、ビールが美味かったこと。

★ ちょっと一言

足立(光)

よかった、よかった。うれしい、うれしい。これに尽きる山行でした。

とにかくついて行ける所までついて行こうと、途中離脱を覚悟の山行でしたが、大きく予想に反して、なんと新神戸駅まで完走できたではありませんか。

ペースを作って頂いたリーダーの方々や、後方から応援して下さいました方々に感謝です。我々夫婦に大きな自信となりました。

三ノ宮での会食も、心底楽しく参加出来ました。

家に帰ってからも、そして次の日も、夫婦そろって、清々しい喜びに浸ってます。

皆様、有難うございました。

➤ 六甲全山縦走を終わって

砂川(延)

六甲全山縦走の申込者は15名、当日の参加者は11名(完走者8名、パーティーから遅れて2名、途中下山者は1名)だった。反省会から見えてきたことを記録しておきたい。

- * 完走のためには、事前の全縦トレーニングで、コースの全体像をつかんでおくことが初心者には特に大切であること。事前トレ(今回は六甲全山縦走1回、西半縦1回)の山行に参加しておくことが、完走する大きな要素であり、関門となったこと。
- * 基本的には、登山の基礎体力の養成が大切であること。
 - ① 全縦コースは、須磨浦公園から宝塚まで47.5km(労山コース)にわたり、六甲の主要な山々のアップダウンを繰り返す。累積標高差の非常に高い、厳しいコースであること。
 - ② アミノバイタルなどに代表される栄養補給剤や筋肉の痙攣緩和薬、サポートタイツなどに頼ってはいけません、あくまでも補助的な手段であること。平地のウォーキングやランニングで使う筋肉とは違う筋肉も使うことから、極端なことを言えば、フルマラソンを完走できても、全縦を歩き通せるとは限らないこと。
- * 装備の面として、食料の補給と靴について
 - ① 途中あまり食べられないため、栄養補給とか塩分補給として、クエン酸系飲み物、その他、食べやすいパン・ゼリー・梅干・チーズ・おにぎり・巻寿司・菓子などの用意。
 - ② 捻挫防止のため、靴はハイカットの靴(登山靴、トレラン用等)を使うこと。長時間歩行のため、靴擦れ対策を考え、履き慣れた靴と合った中敷を使うこと。
- * 途中下山者は、下山連絡先に必ず連絡を忘れないこと。下山指示を無視して歩くことは、事故につながる可能性があり、来年度の全縦取り組み課題として残る。パーティー離脱後の処置についても、ミーティングで徹底しておく必要がある。

八ヶ岳スノーシュートレッキング

日 時 : 2月27日(土)～3月1日(月) 参加者数: 9名

参加者 : A班—L: 上田・井上・大谷・森川・渡邊(健)

B班—L: 砂川(延)・尾越・高橋・松下(冬山教室 第二回)

行動記録 :

2/27: 高砂～宝殿～加古川～西宮名塩9:30～虎渓山(昼食)12:00—12:40～駒ヶ岳13:55—14:10～高遠(花畑宅)14:45—16:05～杖突峠16:35～ペンション「すばる」17:45

2/28 : A班・すばる9:30～ピタラス蓼科頂上駅10:00～北横岳ヒュッテ11:30～北横岳頂上

12:00～北横岳ヒュッテ12:30～ピタラス蓼科頂上駅13:45～縞枯山荘15:00～
ピタラス蓼科頂上駅15:20～「すばる」16:00

B班・・・すばる9:10(車)～蓼科牧場9:50-ゴンドラリフト-10:15～御泉水自然園10:2

2

～蓼科神社鳥居七合目11:10～蓼科山荘(昼食)13:00-14:10(雪質・弱層テスト、
雪崩ビーコンデモンストレーション)14:50～蓼科神社鳥居七合目15:20～御泉水自
然園15:45-ゴンドラリフト-16:10(車)～「すばる」17:00

3/1 :すばる9:10～富士見台展望台9:40～車山高原駐車場10:00～車山山頂11:50—
11:10～車山高原駐車場11:50～霧ヶ峰スキー場(昼食)11:50—12:50～宮坂醸造
(買物)13:10—13:25～諏訪大社13:40～駒ヶ岳14:40—14:55～関16:45(夕
食)

うなぎ[しげ吉]17:50～西宮名塩20:05～加古川21:00～宝殿21:15～高砂21:30

★ 白銀の北横岳、縞枯山周辺スノーシュートレッキングと車山高原散策

渡邊(健)

以前、平荘湖自主トレで、「スノーシュートレッキングは雪景色が素晴らしいし、宿の料理もおいしいよ。」と
聞いて、是非行ってみたいと思っていたが、いよいよその時がやってきた。

今年は9名と少人数であり、10人乗りのハイエースで、往復約1,000kmの長距離を砂川会長自ら運転
されてのドライブとなった。

井上・森川・渡邊の昨年度入会者にとって、初めてのスノーシュー山行であったが、天候にも恵まれて
美しい景色、吹雪(強風)など得難い経験を、この歳にしてさせてもらうことができた。

また、先輩諸氏とも三日間を共に過ごすことによって、親交を温めることもできて実に有意義な山行で
あった。

2月27日(土)

予定通りに出発し中国自動車道から名神・中央自動車道を通り、虎渓山サービスエリアのベンチで弁
当を食べる。日差しが柔らかく異常に暖かい日が続いていたのでスノーシューを履くに値するだけの雪
があるのか心配が募る。

途中、桜で有名な高遠址では、砂川会長が世話になったという民宿「花畑」の奥さんの所に寄り、何種
類もの漬物をお茶請けにして、女性陣に漬物教室が始まり1時間以上もお邪魔してしまった。宿に向か
う杖突峠で八ヶ岳連峰の眺望を楽しむ。宿舎である「すばる」では、噂に聞いていた夕食と地酒「真澄」
を賞味して次の日に備えて早目に就寝する。

2月28日(日)

寝ている間に外で何か音がしていたので、雨でも降
っているのかと心配したが、みぞれが雪に変わったそう
で外を見ると小雪ではあるがしんと降っていた。ま
るで我々のトレッキングに合わせてくれたように新雪が
用意されたことになる。翌日の3月1日の午後からは雨
が降り出したから今日は天気については本当にラッキ
ーであった。美味しい朝食の後、いよいよ出発であるが、
何せ初心者で、一体どんな服装で行けば、寒くも汗



もかかないのか心配になる。雪も降っており、レインウェアを着用して、玄関の外でスパッツを着けたりし
ていたが、風で雪が吹き付けてきて、今日一日どうなるのかと不安がよぎる。雪の舞う中でストレッチをし
た後、ピラタス蓼科スノーリゾートまで300mの深い雪の坂道を、前の人の足跡を踏むようにして登った。
ロープウェイはスキーやスノーボードを持った若者で満員だ。7分間で山頂駅に着く。スノーシューを楽し

もうという人々は、思ったより多くいた。

いよいよスノーシューを着けて、坪庭を經由して北横岳(2480m)に登り始める。登山道はロープで目印がしてあるが、できるだけ前の人の踏み跡をたどって行かないと、雪が崩れてしまう恐れがあった。北横岳ヒュッテでアイゼンに履き替えて頂上を目指す。風も強くなり時には、流されてしまいそうになり必死に踏ん張ることもあった。アイゼンではコースを外れると雪を数十センチも踏み抜いてしまうことも。

頂上では眺望はゼロであったが白銀と風の世界を満喫することができた。下りの北横岳ヒュッテから、またスノーシューに履き替えた。踏み抜き、滑り落ち、尻もちと色々な経験ができた。下りる途中から晴れてきて赤岳も見え始めた。山頂駅に降りて昼食のおにぎりを食べてから、もう一歩きしようということで縞枯山荘まで行った。

ペンションには 16 時帰着。前夜に続いて夕食を堪能する。「すばる」のオーナーの和気さんから、いろんな山の素晴らしさを聞いたのだが、私に山の知識が乏しく折角のお話を、ちゃんと理解できなかったことが悔やまれる。

3月1日(月)

「すばる」を後にしてビーナスラインで車山へ向かう。途中、富士見台展望台にて少し霞んではいたが南アルプス・中央アルプス・北のアルプスを一望した。(残念ながら富士さんは眺められず)車山高原の駐車場から、車山レーダー観測所のドームを目指して登った。下る途中に、微かではあるが富士山が見えた。その後、霧ヶ峰高原スキー場の駐車場にて、「すばる」で用意してもらったおにぎり各自持参したカップ麺の昼食。普段の倍の量を食べたことになる。

宮坂醸造にも寄り、日本名酒‘真澄’を土産に求め、諏訪大社(下社秋宮)に参詣した。

夕食には岐阜県関市の「しげ吉」に立ち寄って鰻丼を賞味した。備長炭で焼くためにパリパリとした食感で香ばしさすがに有名な鰻処の味で、これも大満足であった。18 時前に関を出発して、一路加古川を目指して帰路に着く。

砂川会長 一人に運転を頑張ってもらって、皆は半分夢の中であったが、無事に帰宅することができた。

雪山入門 in 蓼科山

松下

2月27日、八ヶ岳パーティー9名を乗せた車は、名 Dr 砂川さんの運転で一路中央高速を進んで行きます。暖冬のせいか車窓から見える中央アルプスも白黒まだらで・・・今年も雪は無いような気配です。

途中、砂川さんの旧知の方、高遠址の“花畑のお母さん”の処へおじゃましました。漬物談義に花が咲き、珍しいネニラの天ぷらもごちそうになります。温かいもてなしに長居をしてしまい、重い腰を上げて“すばる”へ向かいます。“すばる”へは今度で6回目で、美味しい料理に、まろやかな温泉があり、八ヶ岳の我が家のような感じです。

さて、明日のお天気は？ほろ酔い気分を引き締めて、午後10時の気象通報に集中します。日本の南海上を、前線を伴った低気圧が通過して夜半過ぎから雨が降り、標高1700mの当地では明け方から雪に変わりました。

2月28日、今日の天気は曇り後晴れ。しんと小雪が舞う中をA班はスノーシュートレッキング、北横岳～縞枯山コースへ、B班は蓼科山を目指してそれぞれ出発します。

これまではスノーシューだけでしたが、念願の雪山コースを計画してくれました。

例年、ここで雪山を眺めるにつけ、雪山登山を切望してきました。でも雪山へ行くには力量不足で、なかなか実現しませんでした。

アルパインの夢を追ひ求め、去年は県連で勉強するなどして、私なりに雪山入門への努力はして

きたつもりですが、まだまだ・・・。



蓼科牧場からゴンドラで御泉水自然園へ上がり、輪かんを着け、ここで七合目登山口へ向けてコンパスを合わせます。緩やかなダケ樺の林にはトレースが有りましたが、雪山は現在地の確認が大切なので、地図にコンパスは必携です。蓼科神社の鳥居のある七合目登山口でコンパスを將軍平へ合わせ直します。先行パーティーがあるようで、踏み跡がついています。

緩やかな登りの内に輪かん歩行のコツを掴みます。將軍平までの等高線の詰まった高度差300m程は馬返しと云われるだけあって厳しい登りでした。

普段は何でもない急斜面が重く不思議でした。雪山装備のストレスでしょうか・・・ピッケルの扱いもまだ慣れません。体力の消耗を感じた頃、將軍平にある蓼科山荘が見えた時は、ほっとしました。先行パーティーが休憩していて、彼らからの情報によると、蓼科山頂を目指してラッセルして行っただけで雪が膝上まであってピークハントを断念したとのこと。遅しそうに見受けられた彼らでさえピークは断念した・・・雪山の厳しさでしょう。

帰りのゴンドラの時間もあり、天候がなかなか回復してこないこともあり、リーダーの判断で私達もここで引き返すことに同意しました。

私自身はピークへの思いよりもラッセルの体験を逃したのが残念でした。蓼科山荘前で休憩を取って、来た道を下ります。登ってきた道を上から見ると、転がり落ちそうな急斜面で厳しい登りであったことに納得です。

緩やかな斜面に出てから1月に受けた御岳での雪崩講習会の復習をしていただきました。弱層を探る円柱テストでは、今朝方降った、15cmの新雪の下部には、しもざらめ雪があって、ここが弱層となりそうです。また手に入れたばかりのビーコンで捜索練習もさせていただきました。ビーコンを自在に使いこなせなくては、雪山の神器とは言えませんものね。ピークハントは逃しましたが次に繋げる課題を、それぞれに持てたと思います。一つ一つ経験を積み重ねて、ゆくゆくは雪山縦走にと夢をふくらませ、蓼科山に「また来年ね」と、“すばる”へ戻りました。

ネパールからの報告(5)

★ ヒラリー・ハイスクールのこと

ナムチェからシャンボチェの丘にあるホテル、エベレスト・ビューを越えて、北に行くとシェルパ族の聖なる山「クンビラ」(5,761m)の麓に、クムジュン村がある。かなり大きなシェルパ族の集落があり、エベレストを制覇した何人もの有名なガイドシェルパが、ロッジを経営しながら暮らしている。

私たちが昼食に立寄ったロッジの食堂には、当主がガイドを勤め案内した、山岳会の寄せ書きと、活躍ぶりを写した写真で埋められていた。

この村の入口に「ヒラリー・ハイスクール」がある。ハイスクールは、かなり広い敷地に、小・中・高のクラスがある。この校庭には、設立者のヒラリー卿の大きな銅像が建っている。ナムチェから奥のエベレスト街道では、一番大きく整った学校のような。ナムチェからも街の上にあるシャンボチェの飛行場を越えて、多くの生徒が通っており、登下校時には多くの生徒が列をつくって歩いている光景に遭遇する。ガイドのナワンの話だと、この学校はヒラ

砂川(延)



リー卿がシェルパ族の生活向上を願って、彼らの子供たちのために建てたそうだ。ネパール政府からの援助は一切無かったとの事。かつて、エベレスト街道沿いに暮らすシェルパ族の子供たちに学校は無かった。ほとんどのシェルパ族は読み書きが出来なかったため、自給自足の貧しい生活を強いられてきた。

子供たちが読み書き計算が出来るようになると、より良い仕事ができるようになる。彼らはガイドやシェルパとして教育を受け、エベレスト街道を世界のトレッカーに紹介、今では世界中から登山隊が訪れるようになり、優秀なシェルパとして認められている。家業の百姓か、牧童となるか、ポーターとして働く以外に仕事の無かった若者たちも、読み書き計算が出来るようになり、カトマンズに出て旅行代理店でガイド、ホテルなどで働く若者が増えている。街道筋の村々には、トレッカーたちを泊める宿、(ホテル、ロッジ、パティ)みやげ物の店、食堂、喫茶などで生計を賄えるまでになっている。最近ではホテル、ロッジも建て直し、高級化しつつあるのが現状だ。

ナワンの言葉によればヒラリー卿はシェルパ族にとって国王やダライラマよりも尊敬されている人物であるそうだ。

会員だより

★花の季節

狩集

3月の半ばになると桜の季節がやってきます。

春になれば桜は咲くものと、あまり関心もなく年度変わりの仕事におわれて、いつの間にか、桜の良い時期を逃していました。しかしここ数年前から、毎年桜を見ないと損をしたように思えて、なるべく見るようにしています。桜の名所に行かなくても近所に花見の場所はたくさんあります。

姫路城、夢前川沿い、鹿島川沿い、日笠山、鹿島神社などなど。今年も堪能するほど見たいと心待ちにしています。これも年なのでしょうか。

若い頃は、心に余裕がなかったので関心もなく、今見るができることに感謝しています。山に行けて嬉しく、桜を見て嬉しいこのごろです。

★高御位山から見た播磨灘

関山

何でもいいから～の言葉に・・誘われて・・なにを・・どうしよう・・？そうだ、我々の守護神(山)高御位山から見た播磨灘について書こう。

まず、神戸製鋼所の沖に見える上島だ、標高46m灯台がある。周りは良き漁場だ。15年位前、漁場権と遊漁権の争いがあった。今でも島の周りは○ブイが沢山あり船名が書かれている。

浅い所が3ヶ所位あり。私もオンザロックを2回ほどした・・その時、息子の同級生(中学生)を乗せていた。彼らが言ったことは今でもはっきり覚えている・・まるで**タイタニック**みたいだなあ～。修理に数十万円かかった。その南側に本船航路(成井ルート?)がある。NO1～NO6の浮標灯があり、流れが速い。水深は平均40m位、明石海峡においては90m～100m、高御位山にはウマノセ(馬の背)があるが、ここにはシカノセ(鹿の瀬)があり良い猟場?だ。その北には、播磨北航路がある(長尾ルート?)・・。まだまだ続くが今日のレポートはここまで、またという事で・・

投稿欄

～冬山(来日岳)～

北村(佳)

2月の初め、久しぶりに息子と城崎温泉で一泊する機会があり、翌日、一人で『来日岳』(標高567m)に登った。

温泉街から温泉寺を経由し、林道を…… 遊歩道途中から雪が舞い、路面は真っ白。時折、イノシシと思われる足跡が横切っているのみ。山頂には、電波塔があり幾体かの石仏が、雪笠をかぶり埋もれそうに鎮座している。真冬の静寂の中での一瞬の安堵感を覚える。お湯を沸かし一息入れ、時計を見ると、三時半。天候は良くない。気もそぞろに吹雪の中、地図で確かめながら下山開始。しかし、方位は間違っていないのに、雪に埋もれ下山の道らしき形跡が全く見つからない。焦りを感じながら50mほど下山したものの…??? (これは やばい !) 再び山頂まで引き返す。ラッセルするがごとく！

電波塔の下で野宿をとも考えたが、周辺の視界はゼロ。氷点下の不安・恐怖感から、急きょ、元、登ってきた道を雪の踏み跡をたよりに必死に下山する。ロープウェイ山頂駅に着いたときには、正直、“生きた心地”がした。

冬山の恐ろしさを体験した1日だった。

～OPEN GARDENのご案内～

・開催日 4月16日(金)～4月18日(日)

・場 所 自宅(姫路市花田町)

興味のある方は是非お立ち寄りください。

(北村邸の庭)

